

「健康組合」は
「健康組合」です！

第79回 事業所訪問

千葉ケミカル輸送株式会社の巻 (千葉市美浜区)



新型コロナウイルスの感染が日本国内で初めて確認されてから2年余りが経過しました。昨年末には感染者数も減少傾向を迎え、安心したのもつかの間、新たな変異株「オミクロン株」の感染が全世界で拡大し、再び、私たちの日常生活や経済活動に大きな影響を及ぼしています。

国は、感染予防方法の一つとして十分な睡眠などで自身の健康管理をすることと発信しています。読者の皆さまも感染予防対策の継続と、栄養バランスのとれた食事、適度な運動などを心掛けていただき、「感染しない」「感染させない」生活をお過ごしください。

★★★★★

「暑さ寒さも彼岸まで」といわれ

と技術の共有を図り、事故防止に努めているそうです。

また、今年からコロナ禍を反映し、オンライン講習会も開催。従業員個々の勤務時間や場所を問わず講習が受けられる体制を整えました。徹底した安全管理措置が実を結び、軽微なアクシデントはあるものの大きな事故は起こしていません。

社員の努力を 「見える化」で評価

経費削減対策についてお聞きしました。昨今の燃料価格高騰は、わが運送業界にとって経営打撃に



▲神保社長(右)と阿部所長

るように、今夏の猛暑から秋にバトンタッチされ朝晩は涼しく過ごしやすい季節となりましたが、日中はまだまだ残暑が残る9月30日、第79回目の訪問先として、千葉市美浜区に本社を構える千葉ケミカル輸送(株)(神保義孝社長)を訪問しました。

同地域一帯は、「千葉食品コンビナート」と呼ばれ、昭和39年に発足した日本で最初のそして最大の食品工業団地です。私たちの生活に欠かせない食品製造業が集積していることが特徴で、特に「サイロ・製粉・精糖・製油・冷凍倉庫など」国民生活の基盤となる企業が多くを占めています。

「こんにちは健康組合です！」と事務所を訪ねると、日頃から健康管理委員として当健康組合の保健

直結し、私たち家計にも大きな影響を及ぼしています。神保社長も燃料価格高騰には日々頭を悩ませているそうです。「安定した従業員的生活と健全経営を維持するため、取引先の理解を得て価格高騰に伴う燃料サーチャージ制度の導入に向けて話し合いを進めています」と話します。取引先も燃料価格・物価高騰は経営環境に直接影響するものなので、日頃から良好な信頼関係を築き上げられている証とお見受けしました。

経費削減の一環では、運転データの「見える化」を行っているそうです。ドライバーの運転傾向を

見える化し、安全運転への意識を向上させるとともに低燃費運転ドライバーを給与などでの評価対象としました。そのような取り組みがドライバー全体に徐々に浸透し燃料削減が図られているようです。

また、普段から神保社長と阿部所長は、ドライバーが働きやすくやりがいを感じる職場環境を目指し意見交換しています。神保社長は「私と阿

事業推進にご尽力をいただいている阿部陽一所長に迎ええを受け、事務所で執務中だった神保義孝社長と共に貴重な時間を頂戴し取材を始めることとなりました。

最初の話題は、当健康組合の野球大会です。それというのも、千葉ケミカル輸送は平成30年度から出場し、過去5年間で、優勝1回、準優勝3回と輝かしい成績を納めているからです。

監督兼選手としてチームを牽引する阿部所長は、これまでの戦績に満足せず常勝チームを目指しており、「チームの練習時間は多く取れませんが、野球大会出場をみんな楽しみにしています」と従業員士の高さを語ります。コミュニケーションにも気を配っている様子がうかがえます。

他社にない強みを発揮！

千葉ケミカル輸送は、親会社である交神運輸株式会社(東京都中央区・神保義昭社長)のグループ企業として昭和55年6月に設立、神保社長は3代目として就任されました。設立から現在に至るまで、

部所長は年齢も近く共通する点多々あります。時代に即した経営を目指すという方向性は一緒です」とキツパリ。風通しの良い職場づくりの成果もあってドライバーの定着率は高いそうです。私たちが「神保社長と阿部所長はまさに「相棒」ですね」と続けると、相好を崩したお二人でした。

設立からの理念を継承し、 人材育成に取り組む

最後に将来ビジョンと、普段の健康管理についてお聞きしました。

初代の経営理念は、「グループ全体で従業員100人規模を維持」。その理由は、従業員一人一人に目が行き届くことと、このくらいの規模があれば従業員の安定した生活と会社の発展に寄与するとの考えのようです。神保社長は、理念を継承し、時代の変化と多様化するニーズにアンテナを張り、人材こそが宝」と考え、さらなる人材育成に力を注いでいく決意を新たにしています。

一方、健康維持には、運動不足解消をあげ、神保社長はテニスやゴルフで汗を流し、最近では1日

原油から精製されたナフサを主原料に製造される石油化学製品(トルエンやメタノールなど)の輸送を手掛けており、配送地域は北海道から九州地方と全国各地に及びます。主な取引先は大手科学メーカーや大手商社で「お客様から愛される」をモットーに長年にわたる取り引きが続いているそうです。

経営環境やコロナ禍における影響について「石油化学製品のタンクローリー輸送は、設立から順調に発展を遂げました。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大以降、テレワークの普及で化粧品などの材料となる化学薬品の輸送は減少しました。その反面、テイクアウトの需要増加に伴いお弁当などに使用される包材製品に関する化学薬品の輸送が伸び、多少の影響はあったものの他社にない強みを発揮し健全経営を堅持できています」とのことです。

同社では、「危険物」を扱うことから安全対策に万全を期すため、毎月第3土曜日に会議を開催し、事故事例を基に再発防止の講習や、取引先・車両メーカーから外部講師を招いての専門知識の習得、定期的に協力会社が一堂に会し情報

8,000歩を目標に、ときには通勤の際に2駅前で下車しウォーキングに励んでいるそうです。阿部所長は、草野球で汗を流し、片道約25kmの道のりを約1時間かけて自転車通勤しているそうです(野球大会での活躍は足腰の鍛錬が源だったようです)。

お二人の健康への意識の高さに感服させられ、私たちも見習わなければならぬと痛感したところです。

終始笑顔の絶えない取材の時間はあつという間に過ぎ去りました。神保社長をはじめ、従業員の皆さま、ご協力ありがとうございました。千葉ケミカル輸送のますますの発展を祈念いたします。

★★★★★

本誌が皆さまのお手元に届くころは、インフルエンザの流行時期と重なります。報道では、年末年始にかけてコロナとインフルエンザの同時流行が懸念されています。冒頭、述べたように引き続き感染症対策に取り組んでいただき、少し早いですが、健やかに新年を迎えにられますよう祈念申し上げます。